

かていれいはい さいがいじ  
家庭礼拝ガイド (災害時のために) 第四日

かみ あい さいがい  
テーマ：神の愛と災害

せいしよかしよ もくしろく しょう せつ  
聖書箇所：ヨハネの黙示録16章1～11節

きよう  
◆今日のみことば

「また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。『しかり。主よ、全能者なる神よ。あなたのさばきは真実で正しいさばきです。』」ヨハネの黙示録16章7節

◆メッセージ

人間は悪いことをたくさんしています。世界は神さまの願いとは違った方向に進んで行きます。神さまはそれを残念に思い、人間が間違いに気づいて正しい道に戻るよう、試練を与えて導こうとなさいます。それは、人間を罰するためではありません。神さまはすべての人間を愛しておられるので、何とかして救おうとして、人間を神さまの方へと引き寄せようとなさるのです。けれどもそれは、私たちにはとてもつらいできごとと感じられることがあります。災害もそのひとつです。

黙示録には繰り返しのそのような災害が出てきます。七つの封印(5～8章)、七つのラッパ(8～11章)、七つの鉢(16章)、つらい災害の連続です。同じことが繰り返されているように感じるかも知れませんが、そうではありません。神さまの試練は、封印の時は四分の一に、ラッパの時は三分の一に、鉢の時は全部に、はじめは軽く、あとになるほどだんだん重くなります。神さまはすべての人を愛しておられ、一人も滅びずに救われることを願っておられるので、はじめは試練をできるだけ軽くしてくださるのです。

つらいできごとが起きた時、神さまの方に向かえば、赦しときよめを受けます。神さまを拒めば、さばきを招きます。聖書は、残念なことに多くの人が、神さまを拒み続け、だんだんひどい試練を受けて行ったと書いています。それは神さまのせいではなく、人間が悪いことをやめず、神さまに逆らい続けたからなのです。9節「これらの災害を支配する権威を持つ神の御名を冒瀆した。彼らが悔い改めて神に栄光を帰することはなかった。」11節「天の神を冒瀆し、自分の行いを悔い改めようとしなかった。」とくり返されている通りです。

私たちは、災害にあったり、つらいできごとが起きた時、いつでも神さまは私たちを愛しておられ、救おうとしておられることを思い出しましょう。そして、神さまへの信頼を深め、希望をもって歩みましょう。

いの  
◆お祈り

「つらいできごとが起きたとき、神さまのほうに心をむけて歩めますよう、たすけてください。」

(派遣教師 廣瀬薫)